

登山 月報



JMSCA

登山月報 第634号 令和4年1月15日発行

昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



ガッシャーブルムIV峰 (7,980m)

8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.634

新年のご挨拶 会長 丸 誠一郎	2
第7回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会 開催報告	2
新連載 2021黒部の記録 その4	4
A PW事業報告 (スピードクライミング選手発掘) 千葉、岡山、福岡	6
第12回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会	7
自然保護委員会のSDGsな活動②の1	9
山岳スキー競技の概要とJMSCAの取り組み	10
「マナスル回想45年」八木原 圀明	12
表紙のことば、編集後記	14

新年のご挨拶

会長 丸 誠一郎



全国の登山愛好者の皆様、クライマーの皆様、山岳スキー愛好者の皆様、明けましておめでとうございます。JM S C Aを代表致しまして、一言、新年のご挨拶をさせていただきます。2022年のJM S C Aは、次の4つの点について、注力してまいります。1番目は、山への情熱マウンテンスポーツへの愛情を高め、常に考えを深めてまいります。2番目は、コンテツスキル。所謂クライミング、マウンテンスキー、登山に絡むすべてのキーをくまなく拾い、皆さんに発信してまいります。3番目は、現状を正しく認識し、分析し考えること。

スピードクライミングにおいて何故世界最速になれなかったのか、年末の豪雪時に、何故遭難者を出したのか、役員一人一人が謙虚に考え、基本に立ち返ってまいります。4番目は、プロセススキルを磨きます。JM S C Aは、山と自然の美しさを心から愛し、クライミング、山岳スキーが大好きなアスリートを育て、お守りしなければなりません。そのゴールまでの対応力と正確な処置を判断し、実践してまいります。本年も、皆様の熱いご支援をお願いいたします。

2022年元旦に各SNSに配信した年頭挨拶による



JM S C A 公式 Facebook ページ



JM S C A 公式 Instagram
(スポーツクライミング)
@jmsca_official



JM S C A 公式 Instagram
(山岳)
@jmsca_sangaku

第7回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会 開催報告

第7回目となるボルダリングユース大会(BYC)を12月18日19日、鳥取県倉吉市の倉吉体育文化会館で開催した。当初は4月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のあおりを受けて一旦延期されていた。今大会からYCカテゴリーを切り離したことや、時期的に2021年の日本代表を決める大会にならないなど、大会のあり方に大きな変化はあったが、全国から209名の選手が集まり、冬の山陰を盛り上げた。

1. 開催に至るまで

当初予定は4月26日27日であったが、第4波が拡大していることもあり、一旦中止の決定が地元へ伝えられたのは4月14日であった。仮設壁設置に向け会場に養生シートを敷く作業直前の中止連絡であり、コロナが原因であるとはいえ、2年振りの開催が流れて、地元の落胆は大きかった。その後はコロナの状況を見据えながら、再開を模索し、9月下旬になってようやく12月開催の決定がなされた。

しかし、急に入れた大会のため、体育館の予定上、準備のための十分な日程が取れず、大会6日前に養生シー

ト敷き、5～4日前に足場組・仮設壁設置、3日前からのセット作業など、会場準備はこれまでにない過密スケジュールで行われた。

2. 競技

初日の予選はこれまでの大会と同様に8課題によるコンテスト方式とし、上位6名による二日目の決勝は3課題でのワールドカップ決勝方式とした。

男子ジュニアは、第2課題までを2完登した坂本と佐野の勝負となった。第3課題はランジしてスローパーを押さえ込むことに各選手が苦戦していたが、坂本は、残り15秒のラストトライでスローパーを抑え込み、ゾーンを獲得し、ブザーと同時に完登を決めるという執念のトライを見せ、3完登で1位となった。2位に2完登の佐野が入った。3位以下は1完登で並んだが、第1課題を一撃した平澤が3位に食い込んだ。

女子ジュニアは、3課題ともかなり厳し目の設定で

ジュニア			
1位	坂本	大河/平野	夏海
2位	佐野	大輝/工藤	花
3位	平澤	鼓太郎/滝口	萌

ユースA			
1位	関口	準太/野部	七海
2位	松岡	玲央/小倉	紗奈
3位	三根	生仁慈/竹内	亜衣

ユースB			
1位	杉本	侑翼/永嶋美智華	
2位	藏敷	慎人/関川	愛音
3位	安楽	宙斗/長谷川	颯香



表彰式(左：ジュニア男子、右：ジュニア女子)



表彰式(左：ユースA男子、右：ユースA女子)



表彰式(左：ユースB男子、右：ユースB女子)



あった。第1課題はかかりの悪いホールドの連続で、最後のゴールでは、両手を添えるまでに体がはがされる選手が続出した。平野は、最終トライでゴールに至り、慎重に両手を添えてただ一人完登した。第2, 第3課題はホールド間隔が遠く、最後のゴール取りの一手が厳しく、全選手完登0に終わった。結果的に第1課題を登った平野が1完登で1位となった。2位、3位には3ゾーンを獲得した工藤と滝口が入った。

男子ユースAは3完登の関口が1位に入り、続いて2完登3ゾーンの松岡、三根生、鈴木が並んだが、アテンプト差で松岡が2位、カウントバックで予選1位の三根生が3位に食い込んだ。

女子ユースAは、予選全完登の野部が決勝でも高い修正力を見せ、全完登で1位となった。2位以下は2完登3ゾーンで小倉、竹内、中川が並び、アテンプト差で2位小倉、3位竹内となった。

男子ユースBは、予選全完登の杉本が決勝でもそののり登りで3完登し、1位となった。2位以下は2完登で4人並んだが、アテンプト差で藏敷が2位、安楽が3位に入った。

女子ユースBは、3完登で三人並び、アテンプト差で1位永嶋、2位関川、3位長谷川となった。

3. 感染防止対策

コロナ禍で他大会同様に無観客での開催となった。ユース大会ということで、選手1名につき同行者1名・トレーナー1名を可とした。トレーナーは選手同様にPCR検査、同行者はPCR検査あるいは抗原検査の陰性証明を求めた。同行者・トレーナーの帯同は計115名であった。

また、健康チェックアプリMetellの登録と2週間前からの健康チェックが適正にできている者は受付ゲートで名前チェックのみとし、従来のスマホ画面提示をなくしたところ、受付での大きな混乱はなく、概ねスムーズに受付を行うことができた。

また、カテゴリー終了後は、選手・同行者に速やかな退場にご協力いただき、運営上、とてもありがたかった。

4. 関係者コメント

◆大会実行委員長…………… 村岡 正己

《大会開催経緯》

ユースボルダリング大会は、COVID-19感染防止として2020年度は葛飾へ変更、今回も4月末からの変更でしたが、開催地は変えずに行うことができました。開催地、関係者にあらためてお礼申し上げます。入場数は一人当たりの換気30m³/h、面積4m²の確保を原則に設定、さらに今期に入りイベント開催に関する換気方法の情報が揃い、暖房による空気の対流を利用した感染防止対策を適用。大会開催に漕ぎつけることができました。結果、競技中においてもCO₂濃度は500～750ppm(目標600ppm以下)を維持できました。

大会イメージ映像です。

<https://youtu.be/3CbOXrSBZoo>



◆テクニカル・デリゲート(TD)…………… 杉山 将崇

B Y C 2021は新型コロナウイルス感染症による時期の変更や雪による悪天候と思わぬハプニングもありました。当初はリード壁前やスピード壁前も選手の待機や荷物置きとして使用する事も考えていましたが、もちろん使えませんでした。そういった条件の中、臨機応変に地元スタッフやセッター、ジャッジ、放送など各関係者方が対応してくださり、無事に大会を終える事ができました。大会開催にあたり、多くの理解と支援は必要不可欠です。アクシデントは毎度ありますが、それを乗り越えた屈強なスタッフ達が全国にどんどん増え、縁の下の力持ちが大会を支えているのだと改めて実感する大会となりました。

◆ユース日本代表ヘッドコーチ…………… 西谷善子

今シーズンも、新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、政府の要請等を踏まえ、大会が中止または延期されるなど、開催される場合も無観客や観客数制限下での規模縮小を余儀なくされていますが、そのような環境下でも選手たちが自分自身のパフォーマンスを高め、切磋琢磨している様子に勇気と希望を貰えました。延期により、ご尽力頂きました大会関係者及び選手保護者のご協力に感謝致します。

本来、ユース日本代表選考大会であるユース日本選手権ですが、開催が延期されたため、8月に行われた世

界ユース選手権への派遣選手はリードユース日本選手権及びスピードユース日本選手権の結果で選考せざるを得ませんでした。本大会で上位になった選手には1月～3月に実施するユース日本代表合宿への参加権を与えることで次年度の強化を図っていければと考えております。

今年の世界ユース選手権でのボルダリング種目では、日本全体の競技水準が高いとはいえ、距離感の違いや課題の質の違いに苦しめられた選手も多くいました。今後、より強い日本を作っていくためには、国際規格を意識した国内での実践経験も大切だと考えています。また、昨今リード競技においても単純な持久力だけではなく、ボルダリング能力が求められるようになってきました。小学生からボルダリングを始めてリード競技はあとから始めるケースも多いと思います。ボルダリングが好きな選手がリードの楽しさに気付けると結果的にボルダリングの調子も良くなるパターンが多いのでユース世代に関わる保護者、指導者の方には長期的なプランで取り組んでもらいたいと思います。

5. 終わりに

コロナ禍で感染症対策を徹底した大きな大会を運営することが鳥取では初めてであり、特に受付での混乱を心配したが、選手・帯同者の皆さんのご協力もあり、スムーズに行うことができた。また、12月の山陰地方の心配事は雪であり、引率等、多くの関係者の車で来県が予想されたため、非常に心配した。杞憂に終わってほしかったが、大会両日も寒気の南下で若干の降雪があった。ただ、皆さんに事前連絡していたこともあり、冬用タイヤ装着やチェーンの準備をして会場入りをしていただき、大きな混乱や事故等がなく、安堵した。引率の皆さまのご協力に感謝申し上げたい。

ただ、大会7日後には大寒波襲来で、会場地倉吉で60cmを超える積雪を記録した。大会が1週間ずれていれば大会どころではなくなったことを考えると、その程度の雪で済んで、むしろ幸運だったかなと思わされる。次のBYCは雪の無い暖かい季節で開催して、多くの皆さんをお出迎えしたい。(大会副実行委員長 山田佳範)



2/20 day13 ⇒ ハツ峰IV稜 2150mTS

月夜に照らされる中、前日のフィックスを辿る。1970mコブ付近は木がなく、ナイフリッジをロープいっぱい伸ばす。そこから広がる雪面のスラブ帯は、降雪直後は危険度が高い。私たちは左手に広がったダケカンバ帯へトラバースし、そこから尾根を登っていった。

雪が安定している場合は、さらにトラバースし4ノ沢を詰めて行った方が楽だろう。行動日にして1日分は節約できそうだ。しかし、この時は沢筋に入る事が選択肢にならないほど、昨日の流された一件を引きずっていた。2217mのピークへは3ピッチほどの登攀。所々露出したハイマツで支点も確保でき、安定して高度を稼ぐ。ピークからは20mクライムダウンし、土嚢懸垂を20mでコルに辿り着く。この下降は、北面のダケカンバヘクライムダウンし、北側の沢へ懸垂した方が早かった。

その後、コルから2ピッチ分ロープを伸ばして帰幕。午後に黒い雲が広がり、南風が強くなってきた。暖かいが飛雪が多かった。

2/21 day14 ⇒ ハツ峰I峰直下 2550mTS

何だかテントが狭くなってきたなど北側に寝床を確保していた私。南側の武田側のテントは完全に潰れてお

り、顔がテントの生地で覆われて確認できない。それでも目が覚めないようで、連日の疲れからなのか、神経が図太いのか、ただでは目が覚めないようだ。結局、夜間の飛雪が多く、この山行で初めてのテントラッセルを行った。

コルからフィックスをたどり登攀スタート。広い雪面からリッジを目指す。ナイフリッジ通しで3Pロープを伸ばし、一段這い上がると、さらに激しいナイフリッジが待ち受けていた。尾根を忠実を辿るには時間が掛かることを考慮し、北側の沢へ80m下降し、隣の沢(滝ノ稜の東側)を登り、稜線を目指した。途中、シュルンドに落ちたり、雪が深かったりと時間はかかったが、稜線のコルへ辿り着く。ここから3PでI峰直下コル2,550mの幕営地に至る。夕闇が迫る中80mFIIXして、本日の行動を終えた。

2/22 day15 ⇒ ハツ峰VII・VIIIのコル

若干の寝坊でスタート。今回持参した厚めのエアマットはやはり快適で、寒さで目覚めることはない。

前日のFIIXを辿り、3PでI峰に到着。I峰の下降は若干岩が出ていたが、クライムダウンで処理できた。II峰、III峰も忠実に登り、クライムダウンを繰り返す。I峰の下降以降は、基本コンテで行動。IV・Vのコルへは三ノ窓側に30mの懸垂を行い、しばし休憩。

その後、V峰手前の稜線を通過中に、突然轟音と共に宙に投げ出されてしまった。今回も何が起こったかわからず、気づいた時には逆さに向いた状態でぶら下がって



ハツ峰I峰のクライムダウン

雪庇崩壊現場 下から撮影



快晴の劔岳山頂

ホテル池ノ谷乗越

いた。なんと、雪庇を踏み抜いてしまった。長次郎谷側へ20mほど滑落するも、幸い傾斜の強い壁だったため、体をぶつけることなく、ロープで止まった。サングラスを紛失した程度の無傷で事なきを得た。傾斜の緩い箇所から登り返すため、雪庇に食い込んだロープは外し、別のロープを稜線から垂らしてもらい、登り返すことが出来た。2人は目の前にいた人間が突然消えたことにさぞ心配したことと思う。

後で確認してみると、崩壊した箇所は、ちょうどU字状のリッジで、雪庇の幅5,6m、奥行3mのブロックと共に落下していた。足跡からきれいに切れ落ちていた。また落ちた事へのショックから、しばしの放心状態。落ちた原因に考えを巡らせていると、V・VIの科尔への下降点に到着。V峰のラッピングから三ノ窓側に60m1回で雪面へ下降できた。本日は快晴で、このまま留まるのは勿体ないため、先へ伸ばすことにした。D、Eの頭から15mと25mをそれぞれ1回ずつ懸垂。VII峰からは、三ノ窓側をロープで確保しながら、クライムダウンで科尔へ到着。17時近くになり、日が沈みかけてきた。ハツ峰の頭へは行かず、長次郎谷側40m下った、岩の基部を今宵の幕営地とした。

2/23 day16 ⇒ 池ノ谷乗越TS

低気圧の日本海側の通過と共に、昨夜はアラレが激しかった。明け方からは雪質も変わり、しんしんと降り積もっている。消えたトレースをVII・VIIIの科尔へと登り返す。

VIII峰へは科尔から75mでアンカーを掘り出した岩角、ハツ峰の頭直下までの雪稜25mでアンカーは這松。その基部より20mで頭からの懸垂ポイントとなった。今日はさすがに風が強く、段々と手足が痛くなってきた。ガスで視界が悪いこともあり、池ノ谷ガリーへ50mの懸垂後、池ノ谷乗越で幕営することとした。連日行動の疲れを午後の休養で癒すこととした。

降雪も多く夕方と就寝前に念入りなテントラッセルを行う。深夜のテントラッセルを避けるため、テント周辺には大きなお堀を制作した。テント周辺の雪を掘り下げることによって、テントに降り積もる雪がそのお堀の中へ自動的に落ちて行く。それによって、煩わしいテントラッセルの回数を減らすものである。

2/24 day17 ~劔岳~早月尾根 ⇒ 馬場島

雲一つない快晴。劔岳越えには絶好の日和ではあるが、風強し。この日のために持参したダウングローブなど、携帯したウェアをすべて着込んで出発した。劔岳までの北方稜線は夏道同様に稜線伝いに進んでいった。1か所、長次郎左俣の科尔への下降は夏であれば懸垂であるが、私たちは長次郎谷側を巻いて下降した。360度の眺望と共に、劔岳山頂にたどり着く。

2週間以上前に、岩小屋沢岳から眺めた場所に来られたことが感慨深かった。しばしの撮影タイムを経て、早月下山が始まった。視界良好なため下降路に苦戦することなく、懸垂下降を1回交え、安全地帯の早月尾根に至った。

ここからの下降は自然と笑みがこぼれ、下山の話題に花が咲いた。予定では適当な幕営地で1泊過ごす予定ではあったが、まだ時間が早く、馬場島の人工物が恋しかったため、下りてしまうこととした。

今回は、天候にも恵まれ、黒部横断の入門的なルートを手配することができた。2年前の牛首尾根での一件から少し解放された気もする。

明確なゴールに対して刻々と変化する状況を自分達で考え、行動に反映させていく。雪質や傾斜、天候など、環境に応じた選択をし、少しずつ前進する日々の充実感。下山後には、前日までの疲労が心地良く感じられ、体の芯から湧き出る満ち足りた気持ち。そんな感情を抱きながら、次はどこを辿ろうかと、緊張感から解放された早月尾根で来年の再訪を心に決めた。

極寒のエベレストを
制した突極の肌着!!

かたまり

想像をはるかに超える“保温力”

超肌着力

APW事業報告(スピードクライミング選手発掘)千葉、岡山、福岡

アスリートパスウェイとは

「アスリートパスウェイ」とは「子どもがスポーツに触れてからトップアスリートになるまでの道すじ」と定義されています。アスリートパスウェイ事業は、その整備、構築を目的に独立行政法人日本スポーツ振興センターが『独立行政法人日本スポーツ振興センター委託事業「アスリートパスウェイの戦略的支援」(地域ネットワークを活用したアスリート育成パスウェイの整備)』としてJMSCAに委託する事業です。

スポーツ基本計画では、我が国の国際競技力の向上を図るため、ジュニア期からトップレベルに至る体系的な人材養成システムの構築等が示されており、いくつかの地域においては、都道府県等により「地域タレント発掘事業」が実施されています。また、競技団体においても、中長期的な視点からアスリートを育成するプログラムが展開されてきています。しかしながら、それらの取り組みが有機的に連携する機会が少ないこと等は解決すべき課題です。本事業の目的は、地域の有能なタレント又はアスリートから中央競技団体が育成するナショナルタレントへのパフォーマンス移行を支援するプログラムの整備を行い、強固で持続可能なアスリートパスウェイの構築に貢献することです。

具体的な取り組み

目標はスピードクライミングのタレント発掘・育成システムを各地域に根付かせることに加え、五輪でのメダ

ル獲得です。JMSCAでは2019年～2020年に初めて委託され、中学生を対象に地域タレント発掘事業、岳連と連携して岩手、鳥取、愛媛で実施しました。成果としては、IFSC世界ユース選手権ヴォロネジ2021において、ユースB女子スピードで5位に入賞した河上史佳選手を鳥取より輩出することができました。

現在実施している千葉、岡山、福岡では(2022年まで)主に中学生を対象に2021年11月にトライアウトを行い、小学5年生から中学3年生まで合計56名の応募があり、30名を「JMSCAスピードアスリート候補生」として選出しました。トライアウトでは垂直跳びや20mスプリントといった9項目の体力テストとクライミングの資質を測るトップロープのテスト、意欲やコミュニケーション力等を見る面談を行っています。体力テストはスピードクライミング選手の発掘で成功しているインドネシアの例を参考にしています。

今後、週に1回岳連コーチ、月に1回JMSCAコーチによる練習会と年3回程度の選抜選手合宿で育成を図ります。

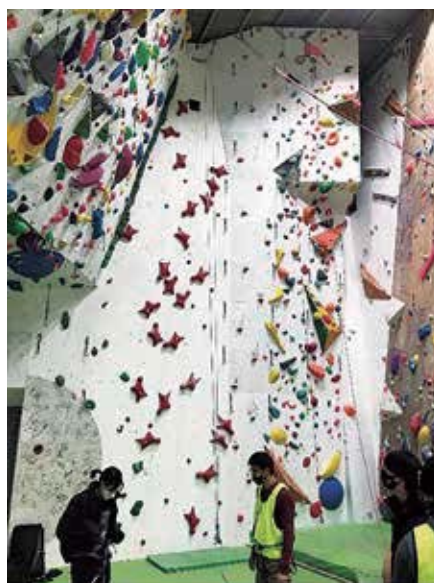
展望

短期目標は2023年ユース日本代表選手の輩出、長期目標は2028年ロス五輪でのメダル獲得です。これまでの指導をベースに、引き続き候補生たちのクライミング能力の可能性が増える取り組みをしていきたいです。

(文責 富澤隆一郎)



千葉拠点「幕張総合高校」での練習風景



岡山拠点「rocks CLIMBING GYM」での練習風景



福岡拠点「ノボルト」でのトライアウト風景

第12回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

実行委員会 村岡 正己

昨年の高校選抜は、COVID-19感染防止対策が会場の換気システム(自然換気)では十分でないとして判断、中止としました。今回は、感染ステージが低く、いろいろな換気手法の情報が出てきており、「暖房による空気の対流を利用」した換気方法が有効として採用、それに基づいた換気量より、1人当たりの換気30m³/h、面積4m²の確保を条件に入場数を算出(350人)、2年ぶりの大会開催に漕ぎつけることができました。但し、開会式、準決勝、学校別表彰は行わないとし、決勝進出を26人、男女同時進行と例年とは異なるスタイルでの大会運営としました。

会場 加須市民体育館

期日 2021年12月25日(予選)ー26日(決勝)

選手 男子 81人 37県/69校(1年30人、2年32人、3年19人)
 女子 86人 38県/76校(1年30人、2年38人、3年18人)
 男女167人 41県/134校(2人以上参加 22校)

1. 競技

選手は、今まで通り幅広い参加となったが、世界大会が中止の影響もあるか、谷井菜月が初エントリー。他にも、ジャパンツアー、世界ユースなど国内外大会で活躍した選手が出場。決勝は熾烈な争いとなりました。

決勝ルートは男女ともに40数手の総合力が求められる内容。男子は、多くの選手が上部の40手からの核心が保持できるかの争い。19番手の抜井亮瑛が43+に到達、つづいて上村悠樹、鈴木音生、関口準太が同高度で4名がひしめく状況となる。そして最後にLYC2021で2位、11月に開催したTOT2021で優勝とパフォーマンス上昇中の村下善乙が登場。しかし下部の12手でホールドを掴み損ね落下。カウントバック、クライミングタイムで鈴木が優勝を勝ち取った。



Result

		男子				決勝	予選
順位	氏名	ゼッケン	都道府県	学校名	学年	高度	タイム
1	鈴木 音生	M066	静岡県	東海大学付属静岡翔洋高等学校	2年	43+	04'55"
2	関口 準太	M015	栃木県	宇都宮清陵高等学校	2年	43+	05'31"
3	上村 悠樹	M081	東京都	東京都立上野高等学校	2年	43+	—
4	抜井 亮瑛	M056	大阪府	金光藤蔭高等学校	3年	42+	—
5	田中 裕也	M019	岐阜県	岐阜聖徳学園高等学校	3年	42+	—
6	石津 元崇	M018	山口県	西京高等学校	1年	40	—
7	松岡 玲央	M074	兵庫県	兵庫県立明石南高等学校	1年	39+	04'45"
8	田中 慧樹	M075	茨城県	茗溪学園	2年	39+	05'31"

		女子				決勝	予選
順位	氏名	ゼッケン	都道府県	学校名	学年	高度	タイム
1	谷井 菜月	W069	奈良県	橿原学院高等学校	3年	TOP	—
2	青柳 未愛	W023	東京都	東京都立府中東高等学校	3年	TOP	—
3	小倉 紗奈	W082	奈良県	奈良県立国際高等学校	2年	44+	—
4	久米乃 華	W056	千葉県	船橋市立船橋高等学校	3年	44+	—
5	工藤 花	W015	山形県	山形城北高等学校	3年	44+	—
6	近藤美七海	W064	神奈川県	神奈川県立小田原東高等学校	1年	44+	—
7	森 奈央	W002	三重県	鈴鹿高等学校	1年	44	—
8	美谷島ももか	W005	神奈川県	日本大学高等学校	3年	44	—

女子では、18番手の青柳未愛が完登する。他選手が44+に終わるなか最後の選手、谷井菜月がほぼ迷わない登りを見せての完登。それは1分以上を残しての完登で、その姿は圧巻で、有観客だったら大いに盛り上がったと思えるパフォーマンスの競演でした。こちらもカウントバックで青柳を抑えて、谷井が優勝を果たしました。



2. 運営

■会場企画 (COVID-19 対応レイアウト)

■大会中データ



CO₂濃度
 開場前 450～500ppm
 大会中 550～800ppm
 ヒーター停止
 1000～1200ppm

気温
 大会中 床1m 10～15℃
 上部10m 19～20℃

* 今回のシステム (熱による換気) は、CO₂測定値からは機能したと考える。

3. ライブ中継

■中継視聴数



■大会記録

大会イメージ動画 (下記参照)

<https://youtu.be/SnFWBXXV3fE>



コメント①: 大会を終えて

～人生にあきらめない心と常に次の一手を目指す～
 加須市山岳連盟 会長 **野本政之**

昨年度この大会は新型コロナ感染症感染拡大防止の観点から中止となり、2年ぶりの大会でした。

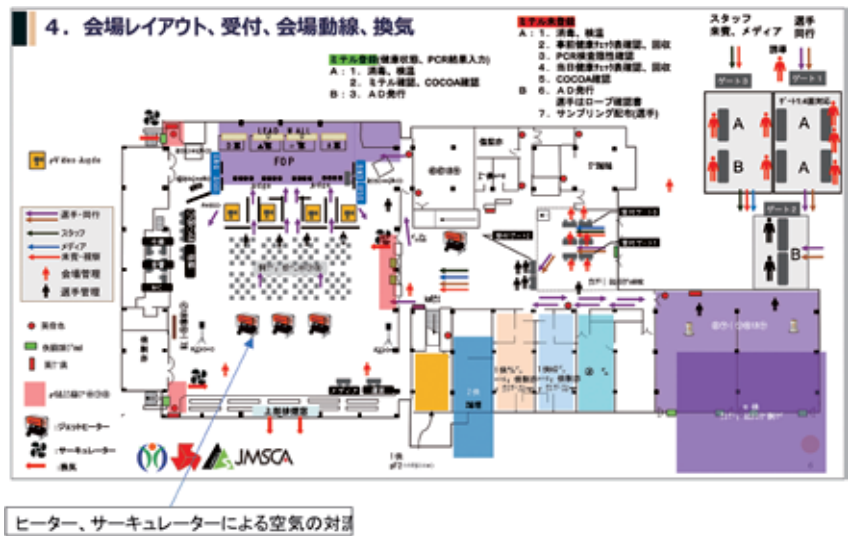
今回、新型コロナ感染は終息されたわけではなく 開催にあたり J M S C A 並びに全国高等学校体育連盟のご指導により関係者の PCR 検査、抗原検査、健康チェックリストの提示、また実施要項においても変更するなど万全を期す対応がなされ無事に表彰式を終えることができました。

参加くださった高校生、引率先生、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、今回大会終了後に田中文男 J M S C A 顧問様を迎えテーマ「高校生大会の今後の運営と方向性」について J M S C A 2 名、全国高体連 3 名、S M S C A 3 名、加須市 3 名、市岳連 3 名でそれぞれの立場での課題と方向性が議論され意義ある会となりました。今後も 4 機関での話し合いを更に深めていきたいと共通認識しました。

最後に全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会発祥の地、加須市での開催が今後も高校生諸君の未来にとって素晴らしい出発点となることをご祈念申し上げます。

4. 会場レイアウト、受付、会場動線、換気



コメント②

実行委員長 **松尾浩志**

(全国高等学校体育連盟登山専門部事務局 スポーツクライミング担当)

昨年は COVID-19 感染状況が思わしくなく、中止となりましたが、今回は感染状況が落ち着いていたため 2 年ぶりに開催することができました。COVID-19 感染が国内で確認されてから今日に至るまで多数の活躍の機会を奪われていた高校生が今回、制約がありながらも大会に参加し、日頃の成果を発揮できる機会を設けていただいたことに心より感謝いたします。今大会は全国高等学校体育連盟が共催する大会であり、それぞれの高等学校、競技団体と調整しながら準備を進めて参りました。以前のように誰でも気軽に観戦できる大会であれば気にならないことも、今回は慎重に対応して参りました。そのため、期待を寄せていただいた方々のお気持ちを十分反映できなかったことを心苦しく思います。制約の多い中でも、素晴らしい競技を見せた高校生の活躍に賞賛を送り、万全の準備のもと大会開催にご尽力いただいた加須市、加須市山岳連盟、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、日本山岳・スポーツクライミング協会の皆さま、選手を日頃支えていただいている皆さまには厚く御礼申し上げます。



全国の山岳（・S C）連盟（協会）自然保護委員会が、これまでもSDGsな活動を推進してきたことは、前稿でも述べたところであるが、ここでは、JM S C A自然保護委員会（以下「委員会」）が2020年9月、理事会からの問いかけに応え「地球温暖化防止対策について、委員会のできることは～山岳環境保全の立場から～」をテーマに有志で話し合い、さらに同年12月にはそれを実践していくための具体的方法について議論した『カーボンニュートラルへの取組み』について述べてみたい。

そもその背景として、全国各地で目につく気象災害による山岳環境の激変がある。山肌に倒壊した樹木を残す山、登山口へのアクセス道が復旧していない山域、登山道の崩落により通行止めとなっているコースも枚挙に暇が無い。

気象庁気象研究所は、2019年の台風19号による東日本を中心とした甚大な被害が、地球温暖化の影響で気温と海面水温が上昇して水蒸気量が増え、降水量が11%も増加したことに因るとのシミュレーション結果を公表している。また、18年の西日本豪雨も同じく温

暖化の影響と指摘、20年12月中旬から21年1月上旬の日本海側の豪雪も、20年の猛暑による海水面の上昇が蛇行した偏西風に沢山の水蒸気を供給したことが遠因だとの指摘もある。

一方、昨今のコロナ禍は世界を大きな混乱に陥らせたが、大幅な温暖化ガスの排出量減少という副産物をももたらした。20年の化石燃料由来のCO₂排出量は19年比で7%減少、単年の減少幅は過去最大という。これが経済活動の急収縮によるものであることは論を待たないが、今後の景気回復に向けては気候変動への対応や生物多様性の維持をも目指す「グリーンリカバリー」が模索され、各国で様々な取り組みが始まっている。

日本でも50年までに温暖化ガス排出量を『実質ゼロ』とする目標が示された。経済活動を維持しながらCO₂の排出量と吸収量を差し引きゼロ（『カーボンニュートラル』）とし、持続可能な社会を目指すものである。

2015年の気候変動枠組条約第21回締約国会議（C O P 21）で採択された「パリ協定」では、国際的な温暖化対策についての法的枠組みが示されたが、森林を含む温室効果ガスの吸収源・貯蔵庫の働きを保全・強化すべきであることが規定され、温暖化対策における森林の役割の重要性が明確に示された形となっている。私たちは今後、温暖化防止のための植林やその維持管理の活動を全国に提言していこうと考えている。それはひいては、私たちが日常的に取り組んできた自然生息地の劣化を抑制して生物多様性と生態系の保全を果たす活動に繋がる、まさしくSDGsな活動といえると思う。

（自然保護委員長 小高令子）



こも掛け作業① 写真提供：伊藤靖雄



こも掛け作業② 写真提供：伊藤靖雄



植樹風景 写真提供：伊藤篤子

去る7月20日東京オリンピックにあわせて開催されたIOC東京総会において、山岳スキーが2026年ミラノ・コルチナ大会の競技として採用されることが満場一致で決定された。JMSCAは日本におけるこの競技の中央競技団体NFで、スポーツライミングに加えオリンピック競技2競技をもつ競技団体となった。しかも夏季と冬季の両大会の競技両方をもつ団体は他にない。しかしライミングとくらべてJMSC内でも認知度は高くないので、簡単にこの競技の概要とJMSCAのこれまでの取り組みについて述べたい。

山岳スキー競技とは

山岳スキー競技とは、登り時には踵がフリーになり、下り時に踵が固定されるタイプのビンディングを使用するスキー、一般的に言う山スキーを利用し、基本的に10-25km程度の距離に標高差300-800mの斜面を3-5回シールをつけて登り、シールをはずして滑降し合計タイムを競う競技である。時間はだいたい1.5-2時間くらいになるようコース設定がなされる。イメージとしては、山スキーを使ったトレイルランニングと考えると頂ければよい。

ヨーロッパアルプスの国境警備を任務とする各国山岳部隊の雪上訓練をもとにして競技が発展した発達した経緯もあり、フランス、スイス、イタリア、オーストリア、スペインなどアルプス周辺国を中心に1シーズンに100余の大会が実施されている。アルプスの稜線を縦横に上り滑降する長距離クラシックレースからワールドカップなど大規模なレースからジュニア中高年男女まで幅広い層の人々が参加するローカル市民大会も多い。競技カテゴリーは男女ジュニア、成人、チーム、などに分かれており。国際レースになると200名以上の選手が参加する。ヨーロッパアルプス周辺国では16歳の少年から男女成人選手から構成されるナショナルチームが結成され選手強化もさかんである。

北米大陸でも普及しはじめており、いくつもの大会がカナダ、アメリカで開かれている。アジアでは韓国、中国なので大会が開催されているがいずれも選手人口はそれほど多くない。

国際山岳スキー連盟 ISMF 公式サイト

<http://www.ismf-ski.org/webpages/>

映像ギャラリー

<http://www.ismf-ski.org/webpages/category/video-gallery/>



冬季オリンピック正式競技化決定

山岳スキー競技は、1924年シャモニーで開かれた第1回冬季オリンピックから48年大会まで4回開催され、ミリタリーパトロールとして正式競技であった。1990年代に入り、山岳スキー競技としてより組織化され、1999年国際山岳連盟UIAAの下部組織・国際山岳スキー競技協会(ISMC)として発足し競技体系として整備され、2009年にUIAAから分離独立しISMFI国際山岳スキー競技連盟として活動を始めた。以来、各大陸別選手権大会や世界選手権大会、ワールドカップシリーズなど国際大会が世界各国で開催され、2021年5月現在、38か国が加盟するまでになった。

加盟国はヨーロッパだけでなく、北米、南米(アルゼンチン、チリ等)アフリカ(モロッコ)にもまたがっている。アジアでは、現在日本に加え中国、韓国、イラン、タイ、さらに準会員としてインド、ネパールが加盟している。

オリンピック競技化は、ISMFIの永年の夢でそれに向けて働きかけを続けてきたが、2020年1月のスイスローザンヌで開かれたユースオリンピック冬季大会に於いて山岳スキーは正式種目として実施されたことで扉があき、2026年ミラノ・コルチナ大会での競技種目化につながった。イタリアはこの競技の強豪国で、開催国が強い競技は採用される傾向があるので、今回がだめなら当分はむりだと思っていたので予想通りの展開となった。コルチナ大会で実施予定の競技は5種目(スプリントと個人が男女で各2。それに男女混合リレー1)の予定で、選手総数が48とされアジア枠は4から6と想定されるのでこの枠を確保し、できるだけ上位に日本選手をすることが当面の目標となる。

スプリントは標高80m程度のゲレンデ内の斜面の中にスキーで登り、スキーを外して歩いての登りとスキー滑

降を合わせて一周3-5分程度のコースを設定して争われるスピード感あふれた競技である。以下のリンクにビデオがある。

https://www.youtube.com/watch?v=f_ghoomsLMs

個人はオフピステを使って合計標高差女子1300mから1600m 男子1600-1900m 距離15km、レース時間1.5-2時間程度のコースを上り下るダイナミックな競技で大会の華となる競技である。ビデオリンクをご参照ください。 <https://youtu.be/JQefYy3S9GU>

リレーはスプリントのコースをやや拡大したコースを男女4人の選手がつなぐレースである。

JMSCAの取り組み

この競技の国際競技連盟ISMFはスポーツクライミングと同様、1990年代まで国際山岳連盟UIAAの下部組織として活動していた関係で総会会場で参加の働きかけがあったのがJMSCAが関わるきっかけである。

それに応えて2004年3月スペインピレネー山脈のスキースキーリゾートで開催された第2回山岳スキー競技世界選手権大会に選抜選手を派遣したのがJMSCAとしての最初の取り組みであった。

この大会に参加した役員・選手が中心となって翌2005年4月17日日本で初めて大会が第1回山岳スキー競技日本選手権として、長野県小谷村柵池高原スキー場で開催された。日山協国際部のメンバーに加え長野県山岳協会の全面協力に小谷村柵池高原観光協会と白馬の山岳ガイド降旗義道氏などの助力を得て初大会が実現した。以来2021年まで柵池で日本選手権大会が実施されている。

2005大会成績優秀者は2006年2月開催の第3回世界選手権大会(イタリア・クネオ市)に選手4名派遣された。2006年4月の第2回日本選手権大会では韓国、中国から選手が集まりアジア初の山岳スキー競技国際大会として実施された。

2007年の大会はアジアで初のISMF公認大会が第1回アジア選手権大会として実施されまた国際連盟の審判養成講座が開かれ日本韓国中国から参加があった。この大会は、ヨーロッパ以外では初めての大陸選手権として国際連盟から高く評価された。

これに続き、2008年には韓国の大会がISMF公認大会となり、その大会を第1回アジアカップ第1戦とし柵池大会を第2戦とし、アジアでの国際公式戦2戦の実施までこぎ着けた。以来本年2021年まで柵池高原に於いて14回の日本選手権大会を実施している。

2021年の日本選手権は4月3、4日長野県小谷村柵池高原で開催され、バーチカルと個人の2種目が争わ



れた。参加選手はコロナ渦も有り、56名と例年より少なかった。

日本選手権や世界選手権を経験した選手達がそれぞれのホームゲレンデに知識を持ち帰り北海道、山形県、長野県、富山県など各地でレースや講習会を開催し現在に至っている。

しかしトレイルランニングやスカイランニングが盛んになっている中で山岳スキーはまだまだ普及しておらず現在の競技人口は約150-200人程度 であるが、フェイスブックの山岳スキー競技サイトには500人以上が登録しており興味を持っている潜在人口はさらに多い。 <https://www.facebook.com/groups/1517748641802029/?fref=ts>

今後、オリンピック競技化でアルペン、クロスカントリーなどスキー種目からの参加や、スカイランニングやトレラン、マウンテンバイク選手の流入もありそうで、競技人口が一気に増えることが期待される。

国際大会での日本選手の実力は伝統があり選手層の厚いヨーロッパ諸国の選手に比べるとまだまだ及ばないところがあるが、アジア選手権では日本選手が常に上位を占めるなど優位にある。近年は20代の若い選手が実力をつけており、2026年に向けて選手強化に力を入れればヨーロッパの選手に負けない記録を出す選手も出てくると思われる。

これまで 山岳スキー日本選手権が長野県でだけ実施されてきたこともあり、JMSCA内の各地方岳連・山岳協会においても競技の認知度は高いとは言えない。認知度を高める意図から2022年2月に日本選手権を富山県宇奈月温泉スキー場で実施することとした。これが刺激となって認知度が拡大することを期待している。またこれまで大会に参加した選手達が北海道、山形、宮城、福島、群馬 長野など各地でローカル大会を始めているのでサポートして頂きたい。

(山岳スキー委員会委員長 笹生博夫)



「マナスル回想45年」

八木原 罔明

昨2021年12月末、「アラムクからマナスルへ」なる殆どがペルシャ語の登山報告書が届きました。カラー写真は少し退色していますが、本登山の発端となった出来事や長い交流の歴史の概略と影山淳さんの2003年から8年間、8回のシルクロード自転車走破行抄録、田村宣紀さん、イラン登山・スポーツクライミング協会のレザザレイ会長の挨拶文と私の拙文だけは日本語訳で読めますが、後は1行も読めません。1975年、否1971年から始まる長い物語の詰まった本(のはず)でした。今から46年前、1975(昭和50年)と言うと皆さんは何を思い出すのでしょうか？

エリザベス女王妻・夫の初来日、昭和天皇・皇后初訪米、フランスでの第1回サミット、国鉄など3公社5現業「スト権スト」、紅茶キノコブーム、ベトナム戦争終結、始皇帝の兵馬俑坑発見など。歌は山口百恵の「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」、子門真人「およげ！ たいやきくん」、布施明「シクラメンのかほり」などが朝日と講談社の20世紀を振り返る冊子に書いてありました。

1975年は国連が定めた「国際婦人年」でした。その5月に成されたのが田部井淳子さんによる「女性による世界初のエベレスト登頂」と11日遅れの中国側チョモランマからのチベット人女性潘多(パンドウ、昨21, 3, 31に75歳で没)さんの登頂成功は、「国際婦人年に女性がエベレスト登頂」としてグッドタイミングのニュースは世界を駆け巡り、田部井さんは登山界のみでない、世界のヒロインとなりました。

1975年春、東京都岳連のダウラギリI峰南稜隊の雪崩遭難事故発生。登山はC3(5800m)を建設し3月22日にサウスピラーの稜線に達するも26日、雪崩がC1を襲い就寝中の日本人隊員2名とシェルパ2名が死亡。4月19日6200mで登山は断念する。雪崩遭難事故の報を聞いた私共カモシカ同人ダウラギリ4峰隊は「何かお手伝いできることはないか？」と隊員を派遣することになる。ヒマ？ な八木原が飛んで行きました。

余計なお世話でも、何かお役に立てないか？はもちろ



マナスルペルシャ語報告書
表紙：頂上の影山



C2の厳かな出発式を経ていざ登頂へ

ん本心であるが、正直に言うともう1つあった。登山を途中で中止すれば都岳連隊はたくさんの装備や食料が余るのではないか。それらを現地で処分するのであれば、数か月後の秋にダウラギリ4峰登山を予定している我々が引き受ければ、購入、寄贈依頼等は減り、輸送料や税金等の無駄を両隊共に節約できる、など一石五鳥、六鳥になろう、と勝手に計算(打算?)したからでもありました。

カトマンズへ着いた私は長野県山岳協会の田村宣紀さん、名古屋山岳会の影山淳さんとイランのシャー・パーレビ国王の親衛隊中尉モハマド・ジャファル・アサディーさんと会う。日本とイランとの合同登山を計画し、ダウラギリI峰の偵察に来ておられたのである。長野県山岳協会(長山協)と名古屋山岳会は当時の正統派長野県山岳連盟時代から、北アルプス登山や1965年のギャチュンカン登山の時代などの強い結びつきがある。

1972年、名古屋山岳会アルプス・シルクロード登山隊の影山さんら3名はグランキャピサン東壁、ドリユ北壁、グランドジョラス北壁中央側稜(日本人初登)、マッターホルン北壁登攀を引っ提げて意気揚々と西アジアへ入り、シルクロードの山々を登ってカトマンズまで車で辿るという計画中、イランのカスピ海の南のエルブールズ山脈の「アラム・クー山(4840m)北壁」登攀中に影山さんが大墜落事故を起こしたことが発端であったが、イラン・日本の合同隊を語ると1971年の長野のグループ・ド・モレーヌ山岳会の田村さんらのダマバンドでのスキーやイラン国内登山があり、影山さんらの登山など50年間の長い物語がある。

イランとの合同登山はイラン側が国を代表するイラン山岳協会であることから日本側も名古屋山岳会と長野県山岳協会主催ではなく、日本山岳協会隊として合同登山隊を派遣することにする。最初はダウラギリI峰の南稜の許可が出されるが南稜では技術的な困難度が高すぎる。イラン側のヒマラヤ登山の経験なども考慮、勘案しマナスルに変更し1976年秋に実行されることになる。変更には他にも大きな理由があるらしいが、それについては日・イ双方とも「完全黙秘」を貫いている。

1976年の日本・イランマナスル合同登山は成功し、その「イラン側のペルシャ語による報告書」が2021年秋に完成したということでもあります。日本側報告書は「友情はマナスルを越えてー1976年日本・イランマナスル遠征隊報告書」として翌77年に信濃毎日新聞社から出版されている。2冊の報告書のシェルパたちの名前と顔を眺めてみると、なんと1971年のダウラギリ4峰偵察、72年の登山で一緒に登った者から始まり、名前と顔が一致する15名以上の知った顔がある。それらもこの合同隊への親しみを増幅させる所以であろう。

実はもう1つイランへの親しみの理由を。私自身も1976年夏に地元群馬の新聞社長の荷物持ちでイランをほぼ1周する3週間の旅行のお供をしたことも理由の1つに入ろう。すでに大冊の石仏写真集も出された写真家でもある社長のカメラ、フィルム等の撮影機材たるや大量である。私的な趣味の撮影旅行であり、社員は使えない。使い減りしないであろう山屋の私が新聞社員である先輩の指名でお供する事になったのです。

イスファハンでは当時世界3大ホテルの1つ、と言われたシャー・アッバスホテルに3泊し、キャビアは食べなかったがカスピ海、アレキサンダー大王(アレキサンドロス大王)に焼かれた大遺跡ペルセポリスなどを回る大変贅沢な旅行の経験があったからでもある。

現在のイスラム政権下では酒を自由に飲むわけには行かないが、パーレビ国王時代は毎夜ビール、ウィスキーを飲めたのは嬉しかった。しかし高級ホテルのレストランやバーの値段だけは気に入らなかった。殆ど同室で寝たが社長は入浴の際に自分でふんどしを洗い、ご自分は酒を飲まれないため毎夜「八木原君、私は休みますから皆さんとゆっくりして来て下さい」と送り出してくれた。

ちなみにその新聞社は1985年夏の御巢鷹山、JAL日本航空機墜落事故を扱った横山秀夫の小説「クライマーズハイ」のモデルとなった会社であり、横山秀夫さんご自身ももとはその新聞社員であった。

長くなったが言ってみれば、この日・イ合同マナスル登山は組織名の変遷があったにしても全日本山岳連盟時代の1960(昭和35東海地区主体、伊藤久行隊長)、1961(昭和36関西地区主体、梶本徳次郎隊長)の試登を経て3度目の正直登山、1962(昭和37関東地区主体、高橋照隊長)年のジュガールヒマールの「ビッグ・ホワイト・ピーク(6979m、レンポ・ガン)」初登頂から繋がっている。

日本山岳協会になってからの1977(昭和52)年のK2(8611m)第2登(吉沢一郎総指揮、新貝勲隊長)、1982

(昭和57)年のチョゴリ(K2)北西稜初登攀(新貝勲隊長、小西政継登攀隊長)の2隊を入れても6回しかない。イラン・日本合同登山は数少ない日本山岳協会主催のヒマラヤ登山としては2番目の成功となる歴史的快挙であり、唯一の合同登山でもありました。渡辺公平日本側隊長は「2国間登山は協会史上特筆すべき出来事」と言い「登頂と国際親善達成」を自ら評価している。

このダウラギリが縁で始まる影山さんの紹介で斎藤安平、アンペイとの1982年秋のカモシカ同人のダウラギリI峰北壁ペアルート登頂、雪男捜索中に雪崩遭難死した鈴木紀夫さんの捜索と遺骨収集、直後の1987年12月、群馬のアンナプルナ1峰冬期南壁初登攀とアンペイの死など山田昇とのコンビ、45年ぶりのペルシャ語のイラン山岳連盟と1976年当時の日本山岳協会合同のマナスル登山報告書の発刊までを思い出すと、書き切れないほどである。渡辺公平会長は武田久吉、楨有恒、松方三郎氏に次ぐ第4代日本山岳協会会長である。

何故45年を経て本報告書が出されたのか? 誰しもが不思議に思うと思います。マナスル登山2年少々後に起きた政変、ホメイニ革命は新しいイランへ向かう。いくらイラン人による初めての8000m峰登頂という輝かしい業績、自分たちのやってきた証を残したいと思っても、近代化、世俗化を進めたパーレビ王朝時代の遺物ともいえる「登山」の実績は雰囲気的にもあまり大きな声で主張できなかつたのではないのでしょうか?

しかし50年になんなんとする日・イマナスル隊員の途切れることのない交流、友情の交歓の証し、結実としてのペルシャ語版の出版に思い至り、また合同登山の実相を知らないイラン国内の1部からのアサディ隊員の登頂を疑う声が聞こえるにつけ、日本側からの協力がありさえすればそんな馬鹿な声は跳ね返せるはずという思いも手伝つての実現だったのでは? とソソクしています。

田村さんや影山さん達が「両国の友情、交流の長さは世界新記録もの!」と叫びたい気持ちも理解できます。私には「どうぞ、最長老のお一人まで記録を更新しながら末永くお続け下さいますように」と声援するしかできませんが。

最後に都岳連のダウラギリI峰サウスピラーは1978年春にイエティ同人隊として登頂に成功したことも記しておきたい。



アサディーの頂上写真、パーレビ王朝50周年記念プレート

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のこぼれ

今月の表紙写真は、ガッシャーブルムIV峰(7,980m)。バルトロ氷河のコンコルディアに近づくと正面にガッシャーブルムIV峰が眺められる。

初登頂は、1958年、R.カシンが率いるイタリア隊が、南ガッシャーブルム氷河に入り、ガッシャーブルムIII峰とIV峰の谷から主稜線を登り、8月6日にW.ボナッティとC.マウリが初登頂。この時、ボナッティは、チョゴリザに登頂した京大隊の桑原武夫隊長から同隊が持ち帰ったH.プールの遺品を預かる。

「輝く壁」と言われる正面の西壁は、1985年7月にポーランドのW.クルティカとオーストリアのR.シャウアーのペアがアルパイン・スタイルで初登攀。

(写真撮影 尾形好雄)

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

編集後記

デルタ株が低調になり、いろいろな制限が少しずつ緩和されようやく活動を再開できると思ったら、島国の日本にもオミクロンはやってきました。感染力は強いが重症化力はあまりないとされていますが、陽性になれば、仕事や生活面では相当な制約があることが予想されます。

刻々と変わる新規陽性化率で制限も日ごとに変わり予想がつきません。

2月から3月に予定していた夏山ライダー認定のUIA A査察も外国人の新規入国は全世界を対象に禁止の継続が決定され、次の査察予定をどうするか悩んでいます。トンネルの出口はまだか。(蛭田伸一)

登山月報 第634号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年1月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

山と人、時代をつなぐ「岳人」

2月号
発売中

特集① ジャパンエコトラックの山々

特集② 読図マスターへの道

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)



年間購読がおすすです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 **1冊分おトク!**
~~10,560円(税別)~~ → **9,680円(税別)**
11,616円(税込) 10,648円(税込)

年間購読特典

わずか32g!※
岳人
コンパクト
マルチランブ



限定デザイン

さまざまなシーンで活躍する
超軽量ヘッドランプ。
※単4形乾電池1本含む重量

全国1,900カ所以上で
ご優待!

岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	 1 貧困をなくそう 2 質の高いエネルギーを普及させよう 3 健康と長寿を達成しよう 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を達成しよう 6 安全な水とトイレを世界中に	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	 7 質の高いエネルギーを普及させよう 8 質の高い成長を達成しよう 9 産業とイノベーションに力を入れよう 10 人や国ごとの豊かさを縮小させよう 11 住み続けられるまちづくりを	・次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害 遭難捜索費用 救援者費用
 傷害入院 傷害通院 傷害手術 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます